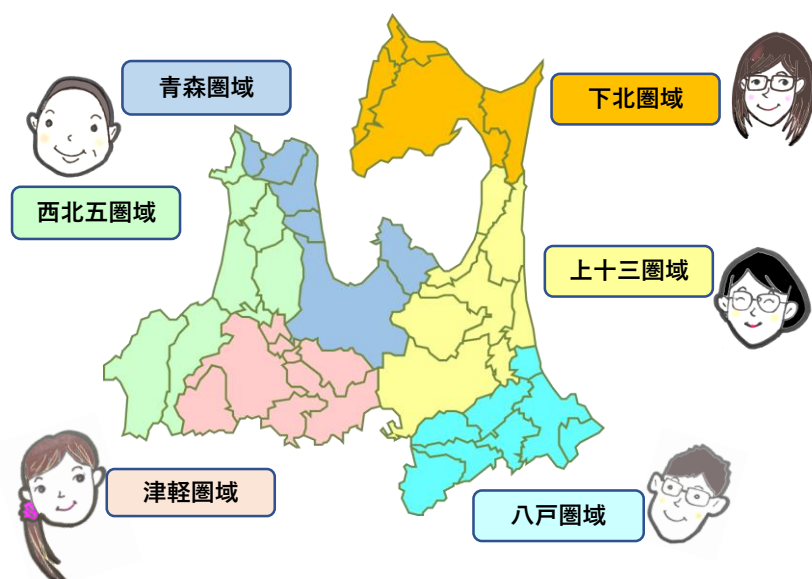


青森県医療的ケア児等 圏域アドバイザー活動事例集



青森県では、青森県小児在宅支援センターと各圏域をつなぎ、地域で活動する医療的ケア児等コーディネーターを支援・助言する役割として「青森県医療的ケア児等圏域アドバイザー」を令和4年11月に配置しました。

今般、これまでの圏域アドバイザーの活動事例をとりまとめましたので、各地域における医療的ケア児支援の体制づくりに向けて、当該アドバイザーを積極的に活用していただければ幸いです。

令和6年1月
青森県健康福祉部障害福祉課

目次

青森県医療的ケア児等圏域アドバイザーの概要・・・・・・・・・・	1
<青森圏域> 医療的ケア児等コーディネーターの伴走支援・・・	3
<青森圏域> 青森圏域勉強会「TEAMつなく」の企画・運営・・・	4
<津軽圏域> 医療的ケア児等コーディネーターの伴走支援・・・	5
<津軽圏域> 災害時個別避難計画の作成推進に向けて・・・・・・・・	6
<八戸圏域> 市町村で配置する医療的ケア児等コーディネーターとの連携づくり・・・・・・・・・・	7
<八戸圏域> 八戸圏域勉強会「八戸の医ケアを考える会」の企画・運営・・・・・・・・・・	8
<西北五圏域> 医療的ケア児等コーディネーターの伴走支援・・・	9
<上十三圏域> 医療的ケア児等コーディネーターの伴走支援・・・	10
<上十三圏域> 上十三地域コーディネーター会議の企画・運営	11
<下北圏域> 相談支援専門員のない地域における圏外入院中児童の対応・・・・・・・・・・	12
圏域別コーディネーターへの支援の取組・・・・・・・・・・	13

青森県医療的ケア児等圏域アドバイザーの概要

青森県医療的ケア児等圏域アドバイザーとは？

青森県医療的ケア児等圏域アドバイザー（以下「圏域アドバイザー」という。）は、県が県内各圏域に配置するもので、主に2つの役割を担います。また、青森県小児在宅支援センター（以下、「支援センター」という。）に寄せられた相談のうち、圏域アドバイザーの関与が必要な相談は、支援センターと圏域アドバイザーが連携しながら対応しています。






アドバイザーとしての役割

- 医療的ケア児等コーディネーター（以下「コーディネーター」という。）や相談支援専門員等の支援・助言
- 圏域協議会運営の助言等

コンサルタントとしての役割

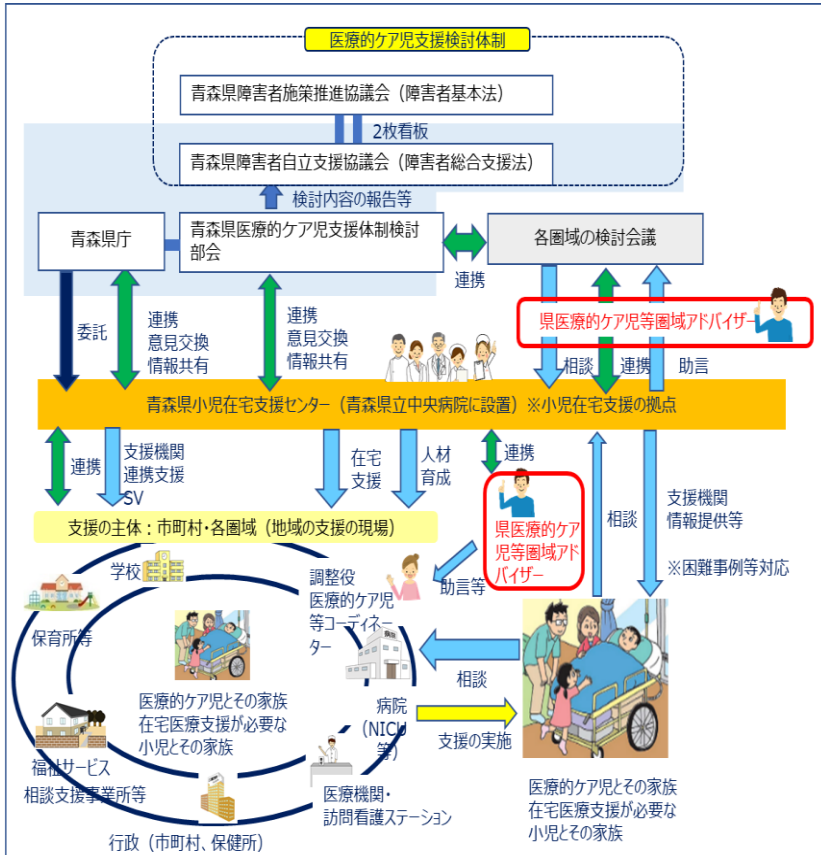
- 支援センターと協働による地域支援、地域診断
- 社会資源の開発等

圏域アドバイザーのご紹介

青森圏域	西北五圏域	成田 豊		(有)大裕 相談支援事業所ホットミルク 【管理者・主任相談支援専門員】
津軽圏域		蝦名 美穂		(福)七峰会 七峰会総合福祉相談支援センタービリーブ 【管理者・主任相談支援専門員】
八戸圏域		清水 博己		(特非)夢 ポンテ 【主任相談支援専門員】
上十三圏域		岡部 裕美子		(福)楽晴会 療育・障害者相談センターボイス【主任相談支援専門員】
下北圏域		野口 真紀子		(福)みちのく福祉会 相談支援事業所ぱれっと【相談支援専門員・課長】

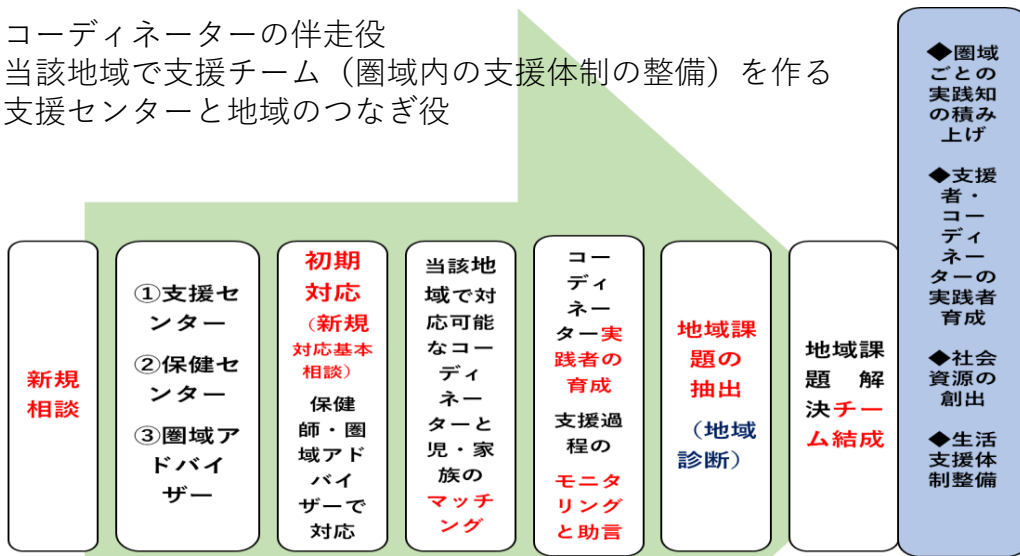
青森県医療的ケア児等支援体制

圏域アドバイザーは、支援センターと協働の上、各市町村や圏域をつなぎ、地域で活動するコーディネーターを支援・助言します。



青森県医療的ケア児等圏域アドバイザーの役割

- I. コーディネーターの伴走役
- II. 当該地域で支援チーム（圏域内の支援体制の整備）を作る
- III. 支援センターと地域のつなぎ役



支援チームとは
当該地域における 保健・医療・福祉（生活、就労支援）・教育の領域の人材で構成される協働体



概要

初めて医療的ケア児のケースを受け持つコーディネーターにアセスメントや計画の作成方法について、伴走して支援を行った。



経過

日付・内容	参加者	内容
R5.2月 面談	5名 本人、母、祖母、コーディネーター、圏域アドバイザー	新規のコーディネーターとご家族との初顔合わせ
R5.3月 面談	5名 本人、母、小児在宅支援センター、コーディネーター、圏域アドバイザー	児童発達支援利用に向けたアセスメントの実施
R5.3月 打合せ	2名 コーディネーター、圏域アドバイザー	アセスメントを行うための情報収集のポイント、アセスメントのコツ



圏域アドバイザーが対応したこと・工夫したこと

① 新規コーディネーターの選定

医療的ケア児等コーディネーター養成研修を修了したものの、まだ医療的ケア児の支援経験のない相談支援専門員の中から選定し、多くの相談支援専門員が医療的ケア児のケースを持てるようにしている。

② 同行訪問時のサポート

初回の訪問で圏域アドバイザーとコーディネーターの関係性など保護者に説明を行い、理解を得るように努めた。初めて医療的ケア児のケースを持つコーディネーターや家族の不安も軽減できるようにサポートした。

③ コーディネーターの自立に向けた支援

初回面談における保護者や児童への関わり方のコツや担当者会議等の参集範囲などの助言を行った。コーディネーターが支援の主体であり、あくまでも圏域アドバイザーは後方支援であるという役割を意識した伴走支援を行った。



圏域アドバイザー派遣申込者の声

相談支援専門員（コーディネーター）

初めて医療的ケア児(Aさん)を支援しました。相談支援専門員としても半人前で不安だけでしたが、初回の面談から圏域アドバイザーの同席により、ご家族や私を安心させてくれました。圏域アドバイザーの「いつでもバックアップするよ」の声がけに救われました。ケア会議前には、会議の進め方についてアドバイスをいただき、無事にAさんは児童発達支援事業所への通所を開始することができ、現在も通所を続けています。

「私には圏域アドバイザーという相談先がある」という安心感を得られてから、Aさんやご家族と会う度に見えてくる変化をキャッチできるようになりました。Aさんにはたくさんの支援者がいて、私には圏域アドバイザーがいます。他のケースにおいても、助かった命を大切に育み続けるために、Aさんも私自身も抱え込まず相談しながら、より良い支援を模索していきたいです。



概要

医療的ケア児が生まれ育つ地域で環境を整えていくために、医療・福祉・行政・教育等の壁を取り払い、医療的ケア児等支援について気軽に話し合い、勉強していく場として、青森地区医療的ケア児等コーディネーター協会「TEAMつなぐ」を発足し運営している。



経過

日付・内容	参加者	内容
R5.4月 青森圏域医療的ケア児等支援勉強会の開催	29名 青森圏域内コーディネーター養成研修修了者、青森圏域行政、小児在宅支援センター、県、圏域アドバイザー	圏域アドバイザーの概要、取組内容等について圏域アドバイザーから説明「TEAMつなぐ」の発足を説明
R5.7月 第1回「TEAMつなぐ」勉強会の開催	61名 医療的ケア児支援に関わる職種問わず	障害福祉・医療サービスのいろはの「い」として、訪問看護、相談支援事業所、保育所、児童発達支援、放課後等デイサービス、居宅介護、医療などの基本を改めて学ぶ機会を提供
R5.10月 第2回「TEAMつなぐ」勉強会の開催	68名 医療的ケア児支援に関わる職種問わず	医療的ケア児の家族からの事例提供及びその児童の将来についてグループワーク



圏域アドバイザーが対応したこと・工夫したこと

- ① **勉強会の自立に向けた調整**
多職種連携をどの様に進めていくか、医師などの参加に向けた調整
- ② **市町村との連携**
研修会開催場所の使用許可等の調整
- ③ **人材育成**
多職種からなる研修検討部会を設置し、研修内容などを整理する体制をつくり、研修内容について、圏域アドバイザーから助言するなど人材育成を行っている。



勉強会参加者の声

相談支援専門員（コーディネーター）

相談支援専門員として業務をしていますが、医療的ケアのことにに関して保護者さんからお話を伺っても、分からないことだらけでした。今回「TEAMつなぐ」の事務局となり、訪問看護師や医療従事者とのつながりができ、医療面、福祉面各々からのケースの見立てを共有することができるようになったことで、今後の支援の広がりや可能性を実感することが出来ました。

圏域アドバイザーは一言で言うと「行動力の化身」です。フットワークが軽く、相談や質問にも答えてくれ、分からないことを一緒に考えてくれる方です。私自身、まだ医療的ケア児のケースが少なく、分からないことがまだまだありますが、常に伴走してくださる心強い存在です。



概要

対象児が退院し在宅に移行することに伴い、相談支援専門員を変更することとなったため、新たな相談支援専門員への支援や地域資源の活用について助言を行った。



経過

日付・内容	参加者	内容
R4.12月 本人を交えたケース会議	9名 本人、家族、コーディネーター、圏域アドバイザー等	在宅移行に伴う地域資源の活用及び相談支援事業所の変更
R5.1月 本人・家族と面談	5名 本人、母、コーディネーター（前任・新任）、圏域アドバイザー	児童福祉サービスの利用意向の確認
R5.1月 放課後等デイサービスの利用再開支援	8名 本人、母、コーディネーター、圏域アドバイザー、放課後等デイサービス事業所職員、支援センター等	入院を機に中断していた放課後等デイサービス利用再開のための、環境面や手技の確認



圏域アドバイザーが対応したこと・工夫したこと

① 地域のコーディネーターの選定

対象児が成人に近い年齢であり、卒業後の支援も見据え、同性で成人の身体介護や相談の経験が長い相談支援専門員を選定した。また、対象児の住所地には相談支援事業所がなく、対象児の状況としても緊急時にすぐに訪問できる体制のほうがよいため、なるべく自宅から近い事業所であることも選定理由となった。

② 同行訪問時のサポート

前任のコーディネーター、新任のコーディネーターと家族のつなぎ役として、スムーズに移行できるよう支援した。

③ コーディネーターの自立に向けた支援

同行訪問は2～3回のみとし、それ以降はコーディネーター単独で支援している。不明点などは都度連絡をもらい助言できる体制をとっている。



圏域アドバイザー派遣申込者の声

相談支援専門員（コーディネーター）

家族と初めて面談する際、圏域アドバイザーが同席することで自分自身にとっても、また家族にとっても安心につながりスムーズにケースの引継ぎができました。

医療的ケア児のケースに携わったことのある支援者が周囲には少ないため、圏域アドバイザーに相談できるのは非常に心強いです。圏域アドバイザーに相談すると、すぐに解決に結びつかない課題であっても、親身になって一緒に考え資源を探したり、コーディネーターとしての大変さも共感してくださったりする等、自身のコーディネーターとしての活動の励みになっています。



災害時個別避難計画の作成推進に向けて

圏域アドバイザー：蝦名 美穂



概要

災害時個別避難計画の作成に向けて、当事者や市町村を交えたケース会議に参加し、コーディネーターをサポートしながら計画の作成に取り組んだ。



経過

日付・内容	参加者	内容
R5.3月 当事者を交えた ケース会議	13名 本人、家族、市町村、コーディネーター、小児在宅支援センター、圏域アドバイザー等	個別避難計画作成に向けた本人の生活状況等の共有や避難先の選定等
R5.5月 当事者を交えた ケース会議	9名 家族、市町村、コーディネーター、支援センター、圏域アドバイザー等	個別避難計画を作成し課題を整理
R5.11月 避難先となる病院での顔合わせ会議	7名 本人、家族、市町村、コーディネーター、支援センター、病院スタッフ、圏域アドバイザー	病院の環境や受け入れる際の対応方法の確認等



圏域アドバイザーが対応したこと・工夫したこと

① 地域の取組状況について情報提供

停電時の自宅での電源確保について、他市町村で発電機を日常生活自立支援用具の項目に入れていること、検討しているところがあることを圏域アドバイザーとして情報提供した。

② コーディネーターの役割について助言

津軽圏域での個別避難計画作成への動きは初めてのケースである。多くの関係者がいる中で、試行錯誤しながらの検討ではあったが、地域全体が協力的でスムーズに進めることができた。コーディネーターには会議設定の調整方法について助言した。



圏域アドバイザー派遣申込者の声

支援センター職員

初めは、支援センターが主導で災害時個別避難計画作成の必要性を説明し、会議を開催しました。

災害時個別避難計画の作成には多くの支援者の知恵と情報共有が必要です。関与する支援者が多いため、圏域アドバイザーと地域のコーディネーターが連携しながら、日程調整や連絡等を行いました。

圏域アドバイザーは地域の実情をよく知っているため、このケースに必要な支援者（自治体、放課後等デイサービス事業所、民生委員等）の選定や声掛けを行ったことにより、津軽地域に支援チームができたことは、大きな収穫です。



概要

市町村単独で設置するコーディネーターについてその選定基準について助言を行ったほか、市町村配置コーディネーターと圏域アドバイザーの連携体制について整理を行った。



経過

日付・内容	参加者	内容
R5.8月 打合せ	4名 市町村、圏域アドバイザー	市町村でコーディネーターを配置する際の業務内容等について検討
R5.10月 打合せ	5名 市町村、圏域アドバイザー	市町村コーディネーターとの連携方法について検討
R5.11月 打合せ	9名 市町村、市町村コーディネーター、圏域アドバイザー	市町村に配置されたコーディネーターとの連携について検討



圏域アドバイザーが対応したこと・工夫したこと

① 地域の市町村との連携

各課・専門職の課題を共通認識できるように庁内の関連課と打ち合わせの場を設定した。

② 市町村コーディネーターとの連携

自治体の現状と課題を共有し、課題解決に向けての庁内連携をどのように行っていくのかを検討した。



圏域アドバイザー派遣申込者の声

市町村医療的ケア児支援担当者

今年度、コーディネーターを新たに配置するにあたり、これまでに3度、圏域アドバイザー派遣を依頼しました。

1回目は、コーディネーター配置業務の方向性や業務の内容等について相談しました。

2回目は、受託候補者を交えて業務内容や、関係機関との連携について相談し、令和5年11月1日からコーディネーターを配置することができました。

3回目は、保健、保育、福祉、教育の庁内関係課とコーディネーターとの打ち合わせを行うこととし、庁内関係課との連携方法の他、他関係機関との連携についてのアドバイスをいただきました。

市町村担当者では気付かない専門的な視点からのアドバイスをいただき、確認しながら業務を進めることができました。今後も、関係機関と連携しながら事業を円滑に実施していくための助言等をお願いしたいです。



概要

令和4年度に八戸圏域の支援者が集まり、自主勉強会として「八戸市医ケアを考える会」を発足し、圏域アドバイザーは事務局員の一人として企画・運営している。



経過

日付・内容	対応者	内容
R4.9月 R4第1回開催	11名	短期入所に関する情報交換
R4.10月 R4第2回開催	16名	事例検討（将来を考えよう）
R4.12月 R4第3回開催	21名	就労について考えよう
R5.2月 R4第4回開催	31名	今さら聞けないことを聞く
R5.5月 R5第1回開催	13名	社会資源を開拓しよう
R5.7月 R5第2回開催	20名	薬剤師から話を聞こう
R5.10月 R5第3回開催	10名	みんなで話し合おう
R5.11月 医療的ケア児（者）パネル展・交流会（県重症心身障害児を守る会共催）	多数	出張プラネタリウム上映・遊びの場設置・視線入力・家族交流会・当事者の講演



圏域アドバイザーが対応したこと・工夫したこと

① 地域の市町村との連携

コーディネーターの技術向上のための場を設置したいことを伝え、市町村職員と一っしょに学ぶ機会を創出した。

② コーディネーターとの連携

タイムリーで、現場で活かせる知識・技術の獲得のために話し合いができる関係を構築した。

③ 他地域への波及

勉強会参加者が、他地域で本勉強会の取組を説明するなど他地域へ波及できている。



勉強会参加者の声

相談支援専門員（コーディネーター）

困ったことをピンポイントに学ぶ機会になっており、支援での方向性で悩むことがあった時には勉強会が解決の糸口になることが多くあるなど、大変有意義な場になっている。



概要

就学を控えた年中の医療的ケア児について、普通学校での受入を視野に入れて主に市町村との連携から取り組んでいる。



経過

日付・内容	参加者	内容
R5.5月 ケース会議	12名 市町村、支援センター、圏域アドバイザー	西北五圏域の医療的ケア児等の把握と今後の圏域での動きについて確認
R5.9月 ケース会議	7名 市町村、コーディネーター、圏域アドバイザー	今後のケース会議開催の目安や確認事項の整理



圏域アドバイザーが対応したこと・工夫したこと

① 行政機関との連携

福祉課と教育委員会での市立小学校入学に向けた調整

② コーディネーターとの連携

次回会議開催時の保護者の出席連絡等をコーディネーターが行うよう助言した。また、次回会議参加者や内容等のアドバイスをを行った。



圏域アドバイザー派遣申込者の声

相談支援専門員（コーディネーター）

圏域アドバイザーが会議に参加することで、県の動きや県内の情報を市町村と共有することができました。また、支援センターの医師との連携により、対象児の将来像も見え、具体的な支援について話し合うことができました。

さらに、圏域アドバイザーのアドバイスにより、市町村とどのように連携するのか、ケース会議に必要なメンバーは誰か、どのように会議を企画するのか等事例を通してケース会議の企画・運営を学ぶこともできました。1回の会議で市町村内の障害福祉担当者と教育担当者の意見を聞くこともでき、大きな収穫となりました。



概要

市町村で配置されたコーディネーターに伴走する形で在宅移行支援及び福祉サービス利用に向けた後方支援を行った。



経過

日付・内容	参加者	内容
R5.7月 退院時カンファレンスへの参加及び地域移行後の相談体制整備	15名 本人、家族、医療機関、市町村、支援センター、圏域アドバイザー等	医療機関からの情報を参加者と共有し、市町村コーディネーターの選定に助言
R5.7月 自宅訪問	7名 本人、母親、祖父母、市町村コーディネーター、圏域アドバイザー等	コーディネーターの初回自宅訪問に同行、生活状況と今後の意向確認
R5.9月 自宅訪問	5名 市町村コーディネーター、圏域アドバイザー等	現況確認及び利用サービス等について情報提供
R5.10月 児童発達支援事業所及び保育園等訪問	7名 市町村コーディネーター、圏域アドバイザー等	サービス提供事業所等の資源状況等の確認



圏域アドバイザーが対応したこと・工夫したこと

① コーディネーターの自立に向けた支援

自治体との協議によりコーディネーターの選定から関わった。初めての医療的ケア児支援への不安をコーディネーターが払拭できるよう、事前の情報提供と今後の方向性についての打ち合わせを行ってから、対象児との初回面接に臨む等工夫した。

② 市町村をまたがる事業所等の調整（保育所等の選定）

対象児の居住地が変更になる可能性があったため、現居住自治体及び転居予定先自治体双方に情報提供を行い、受入れ体制整備を行なった。

③ サービス利用希望事業所への助言

施設見学時、対象児及び事業所双方に必要な情報について補足で確認する等、不明な点の整理を行なった。



圏域アドバイザー派遣申込者の声

相談支援専門員（コーディネーター）

初めてのコーディネーター活動で何からやっていいのかわからなかったが、圏域アドバイザーと事前に情報を整理できたことで一歩踏み出す事ができた。

自宅訪問や事業所見学も一緒に行ってもらい、保護者や事業所から聞くべきポイントも教えてもらったのも収穫である。

圏域アドバイザーがいたことで不安の軽減につながった。



概要

圏域アドバイザー：岡部 裕美子

上十三圏域の課題や地域資源の整理を行うほか、コーディネーターの育成及び自治体職員の理解を深めることを目的に、コーディネーター、検討会議委員及び自治体担当職員を対象とした上十三地域支援体制検討会議主催の「上十三圏域コーディネーター会議」を企画し、事例検討会を行った。



経過

日付・内容	参加者	内容
R5.11月 支援体制検討会議	24名 委員、オブザーバー、市町村担当者	上十三圏域の各自治体の 状況報告
R5.11月 コーディネーター会 議	41名 圏域内コーディネーター、検討会議委 員、市町村担当者、オブザーバー、圏 域アドバイザー	圏域内の事例検討会他



圏域アドバイザーが対応したこと・工夫したこと

① 事例検討会で検討するケースの選定

上十三圏域で様々な課題のあるケース3件を選定し、課題解決に向け医療・福祉・行政等各分野の参加者から意見・情報を共有した。

② 圏域としての書類の取扱いについて検討

障害福祉サービス等利用における「医療的ケア判定スコア」の取り扱いルールが不明であることから、圏域として統一するかどうか検討した。

③ 各自治体のコーディネーター配置について

対象児がいるがコーディネーター配置に至っていない自治体やコーディネーター養成研修修了者不在の自治体に、コーディネーター配置を要望した。



会議参加者の声

相談支援専門員

地域の多職種が一同に集まり、様々な情報や対応策などを検討できて勉強になった。今後自分も多様なケースを担当すると思うが、地域の方々に意見を伺いながら支援していきたいと思った。

訪問看護師

初めて多職種が集まる機会となり地域のコーディネーターとも顔見知りになる事で、繋がりを持つことができ良かった。日頃の悩み等を話す事ができる関係ができるのは大事だと思った。



概要

圏外に入院する医療的ケア児の今後の支援について、支援センターと連携しながら地域支援を行った。



経過

日付・内容	参加者	内容
R5.7月 関係者打合せ	5名 市町村、支援センター、圏域アドバイザー	退院後の対応及び役割分担の整理
R5.8月 関係者会議	18名 市町村、入院中病院、入所予定施設、支援センター、退院後通院予定病院、圏域アドバイザー	入院中児童の転院前カンファレス



圏域アドバイザーが対応したこと・工夫したこと

① 市町村との連携

定期的な訪問や電話により、市町村担当保健師や福祉担当者との情報共有を図っている。保健師には家族の身近な相談相手として心理的なサポートを依頼した。

② 支援センターとの連携

対象児と家族の状況を情報共有し、一時帰宅を目標に移動負担を考慮して時期を検討するとともに、居住地及び圏域内で活用できる資源を確認した。

③ 資源の少ない地域への支援

地域資源の掘り出し、居住地の地域病院・消防署との情報共有、圏域の医療・福祉・介護等との連携等支援体制の整備を行った。



圏域アドバイザー派遣申込者の声

支援センター職員

今回の対象児は、入院しているのは津軽圏域、今後入所する施設は八戸圏域、ご自宅は下北圏域と広域での連携が必要となりますが、居住地域にはコーディネーターがいませんでした。

入所前にはオンラインで関係者会議を実施し、圏域アドバイザー、市町村保健師等の参加により、地域と遠方の医療機関との情報共有が実現しました。

入所後は、自宅への外泊を目指しています。そのためには、居住地域との連携や地域で暮らす家族への支援が必要ですので、圏域アドバイザーがその「橋渡し」を担ってくれています。

圏域アドバイザーにおける支援の取組の方向性

各圏域アドバイザーは、圏域内のコーディネーターへの支援・助言に随時対応していきます。

<青森圏域>

- 支援センターからの依頼が多い圏域である。
- コーディネーターとして医療的ケア児の支援経験のない相談支援専門員にケースをつなぎ、圏域アドバイザーの伴走支援により、多くのコーディネーターの活躍の場を広げ、地域の底上げを図っていく。

<上十三圏域>

- 医療的ケア児支援に意欲的なコーディネーターが多いが、不安を持っているため、初動やカンファレンスに同行し、適宜助言・支援していく。
- 資源が多くない地域だが、コーディネーターや事業所等が繋がりを持ち、情報交換や相談し合える関係性の構築に努めていく。

<津軽圏域>

- 津軽圏域は未就学の医療的ケア児を預かってくれる保育園が少ないことが課題である。
- 医療的ケア児を預けられる保育園が増えるよう、医療的ケア児等保育支援事業や小児在宅支援センターの活用について圏域内のコーディネーターに情報提供していく。また、受け入れに前向きな保育園については、コーディネーターや支援センターと協力しながら、不安なく受け入れられる体制づくりの助言を行っていく。

<西北五圏域>

- コーディネーターと共にケア会議等に同席していく。
- 新規の支援依頼をコーディネーターにつなげていけるよう、今後、圏域アドバイザーと圏域内のコーディネーターの顔合わせを行っていく。

<八戸圏域>

- コーディネーターが活動しやすいよう行政等の関係機関への働きかけを行い、体制づくりを行っていく。
- 引き続き勉強会や普及啓発活動を企画・実施し、ネットワークの構築を行っていく。

<下北圏域>

- 医療的ケアが必要となる可能性がある重症心身障害児や難病児のケースは、引き続きコーディネーターと共に退院前会議に同席していく。退院後は自宅訪問に同行し、家族支援や学校・事業所との連携について助言していく。
- むつ市地域自立支援協議会医療的ケア児支援部会で、圏域内コーディネーターと行政関係機関と意見交換会を実施し、各々の役割や課題等を話し合っていく。

「青森県医療的ケア児等圏域アドバイザー活動事例集」

発行 青森県健康福祉部障害福祉課

〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号

TEL017-734-9309 FAX017-734-8092



青森県医療的ケア児支援関連
ホームページQRコード